

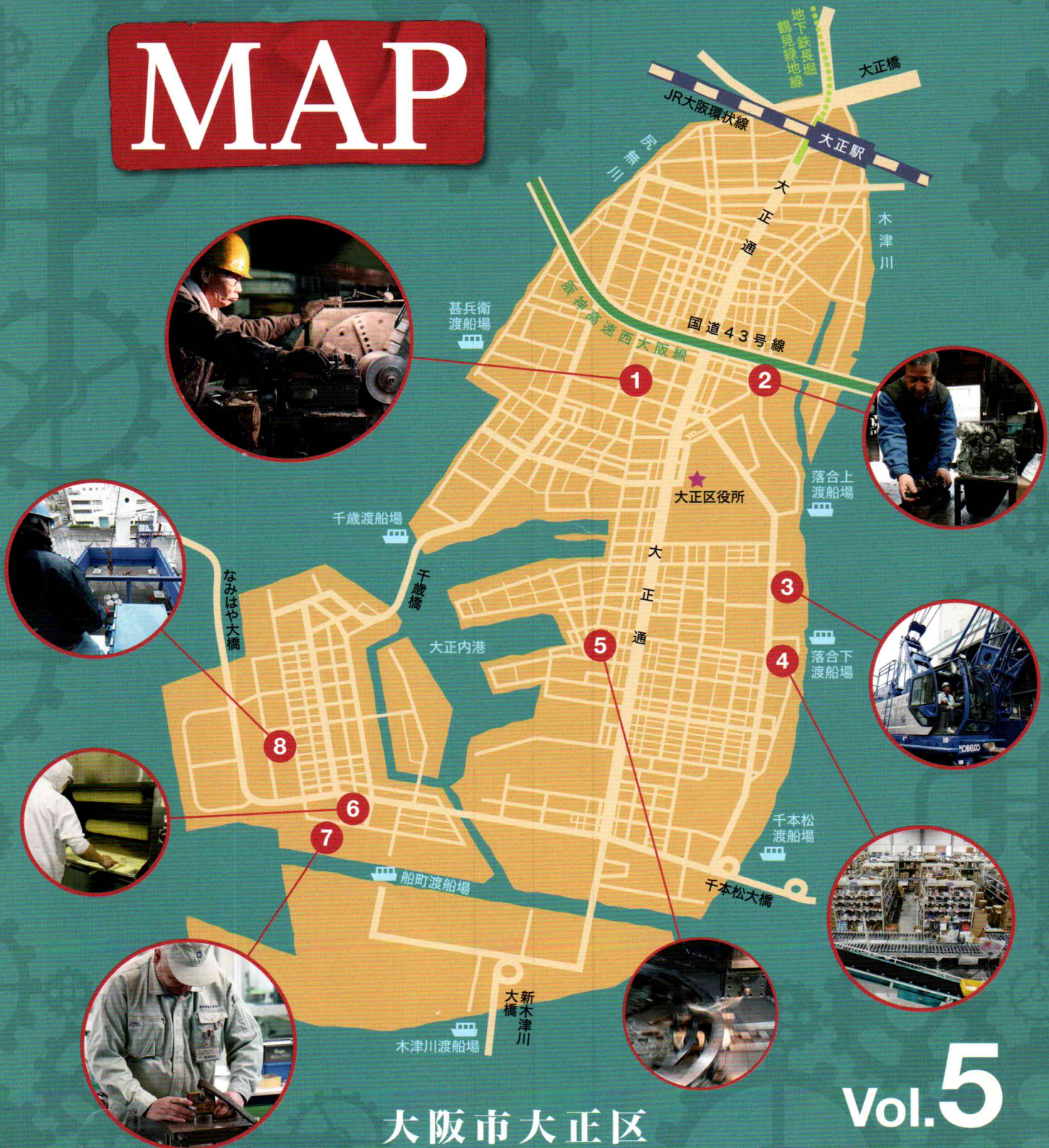
# 大正

あんなものから  
こんなものまで  
つくっています

- 1 大正製作所
- 2 大阪自動車機工
- 3 藤井組
- 4 手原産業倉庫
- 5 上田鉄工
- 6 菓子工房 CROWN
- 7 福井精機工業
- 8 大阪港湾労働分所  
(ポリテクセンター大阪港)

# ものづくり

# MAP



大正区を支える

ものづくりの

現場

Vol.5

昭和7年(1932)に発足して以来、大正区は「ものづくりの街」だ。まわりを見渡せば、海と川に囲まれた豊かな水運。歴史をたどれば、名だたる自動車工場に造船所、貯木場に鉄鋼所が拠点を置いた。そして今も、近代大阪産業の記憶を受け継ぐ企業が大正区を支えている。熱気たちこめる現場へ、ものづくりに生きる人々に会いに行ってみよう。

# 金属加工

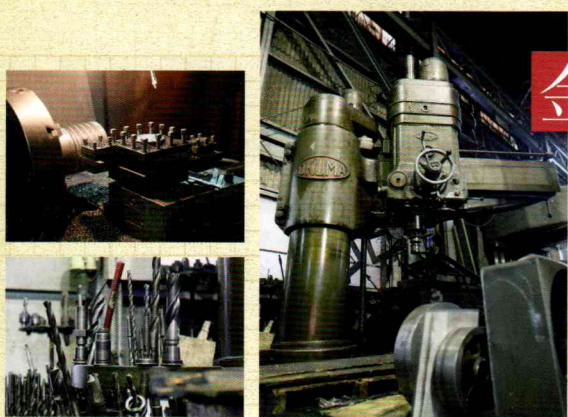


自作の旋盤制御プログラムと  
勤続60年の職人がコラボ

三代目の大野明雄さん(左)は大学院で数学と情報工学を学んだ理系のエンジニア。



●大正区泉尾4-20-6  
☎06-6551-2715  
<http://tssiono.c.ooco.jp/>



## 1 大正製作所

昭和18年創業の大正製作所は、金属加工のプロフェッショナルだ。食品工場のタンク、産業用機械の攪拌羽根、浄水場や水処理施設などで使われるシャフトなどを、材料と図面を預かって精度高く仕上げる。

「うちが得意とするのは一点モノの特注品。他では断られるような難しい加工も、材料を据えつける土台や加工する刃物を自作するなど、いろんな工夫を行って仕上げます」(大野一郎社長)。評判とともに顧客の幅も広がり、最近では某人気テーマパークで稼働するアトラクションの部品も担当した。

6人の職人さんの中で一番のベテランは勤続60年にもなる。大野社長は昔からコンピュータに詳しく、NC工作機械とNCプログラムをパソコンとの間でやりとりするプログラムを自作。「もったいないから」と会社のホームページで一般公開している。「自分の創意と工夫が活かせる職場です」と大野社長が語る同社では、NC機械を道具として使いこなし、熟練の技を未来にわたって継承してくれる意欲ある若い人材を募集している。

## 自動車修理



九州からも注文が舞い込む  
西日本有数の修理工場



運輸会社で長年使われていたトラックのエンジンを、一台ずつオーバーホールしピカピカに磨き上げる。

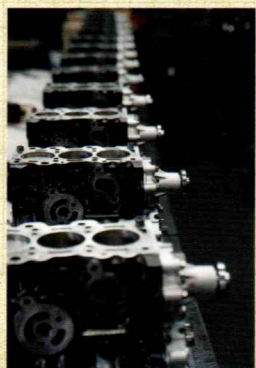
## 2 大阪自動車機工

「ふつうの自動車工場が修理で行うのは『部品の交換』が主ですが、うちには本当の意味で車を『修理』しています」。笠原正裕社長は、大阪自動車機工の仕事についてそう説明する。同社に持ち込まれるのは大型トラックやフォークリフト、ブルドーザーの壊れたエンジンや部品など。事故や長年にわたる酷使で歪んだり、摩耗してしまった部品を、熟練の技で新品同様に蘇らせる。「新品だと高額だったり、中古品もないような部品も、特殊技術で再生します。うちのような技術を持つ自動車工場は日本に数社しかありません。西日本では他にないことから、九州からも修理の要望が来ますね」

昭和45年の創業時から、大正区に工場を構える。前身の会社では旧日本陸軍の自動車整備を担当しており、技術の高さは折り紙つきだ。同社で作業が難しい高度な溶接などは、同じ大正区にある糸永溶接工業所に頼むこともある。「大正区には高い技術を持つ中小企業がたくさんあるので、お互いに助け合って業務に取り組んでいます」



●大正区千島1-2-15  
☎06-6551-0246



工場見学ご希望の方は、  
大正区役所  
(☎06-4394-9942)  
までご連絡を



3万8千種のアイテムを扱う  
巨大なハイテク物流センター

## 倉庫

### 4 手原産業倉庫

2002年に操業を開始した手原産業倉庫の大正センター。2階建て6,100坪の広大な建物内部には、コピー用紙や文房具、カップラーメンやお茶など大手文具メーカーが扱う3万8千種のオフィス用品が整然と並ぶ。トラックが運び込んだ荷物はすべてバーコードで管理され、コンピュータ制御のベルトコンベアが正しい棚まで自動的に運んでいく。「在庫数や“先入れ後出し”も厳密に管理されています。15年前の開業当初は、日本有数のハイテク倉庫として話題になり、見学者希望者がたくさん来ました」(管理部・足立一行さん)。

この倉庫を旗立った文具具卸会社を経由し、西日本・中四国の企業や学校、役所や医療介護施設などへと売られていく。関西在住の人ならば、知らず知らず手原産業倉庫発の文具を手に入れている可能性は大いにある。



倉庫で働くスタッフのうち65%が女性。そのほとんどが大正区在住の地元密着企業だ。



●大正区平尾1-2-56  
☎06-4394-0321  
<http://www.tehara.co.jp/>

### 3 藤井組

**高** 速道路や大きな橋梁の土木工事では、そのコンクリートの巨大な構造体を支えるために、支持地盤にまで届く杭を打つことが必須となる。藤井組はその杭打ちを専門とする会社だ。通常の機械が入らない狭い場所や、上空に障害物がある場所でも杭を打つ「アルファシステム工法」と呼ばれる技術が高く評価され、ゼネコンの一次下請けとして数々の大型土木工事に携わってきた。施工実績には大正区の地下鉄駅や、最近では道頓堀川の遊歩道などがある。

5代目社長の森致光さんは「完成した建造物を見ても、地下深くにある我々の仕事は誰も気づきません。だからこそ工事のプロセスすべてにおいて美しい仕事をするのが、我々の商品であり成果物だと考えています」と語る。多くの人々の往来を、藤井組の技術が足元で支える。

●大正区小林東1-2-44 ☎06-6551-7307  
<http://www.o-fujiigumi.co.jp/>



道路や橋の基礎を支える  
杭打ちの専門家集団

## 杭打ち



見学の子どもたちにも大人気の、最近導入した最長60mにもなるコベルコ製のクレーンは、最大90tの重量物を持ち上げる。



大正区民が待ち望んでいた  
お菓子の工場直営店を開店

### 6 菓子工房 CROWN

鶴 町1丁目の通りを歩いて甘い香りが漂ってきたら、CROWNの工場が近づいた印だ。2年前に大正区に本社工場を構えた同社では、ここで作ったロールケーキやクッキー、フィナンシェ、ゼリー、プリンなどの洋菓子を近畿圏の一流ホテルや高級菓子店に納めている。

お菓子作り20年以上のキャリアを持つ社長で工場長の打越稔明さんは、「美味しいお菓子を作る技術とラインアップの広さはどこの店にも負けません」と胸を張る。中でも一番の自信作は、1時間かけて15層を焼き上げるバウムクーヘンだ。

昨年末には、本社工場の道路を挟んだところに直営店を開店。できたてホヤホヤのお菓子をわけあり価格で販売したところ、週2回の開店日には行列ができるようになった。「開店したら地元の方々に『も～今までいい匂いだけさせて！ずっと待ってたわ』とすごく喜んでくれました。仕事を通じて人々を笑顔にできるのが、菓子作りの魅力ですね」

打越社長(左)は「大正区の直営店を皮切りに、今後は自社ブランドの店を大阪に出店していきたい」と語る。



●大正区鶴町1-18-13  
☎06-6556-1234

## 洋菓子製造

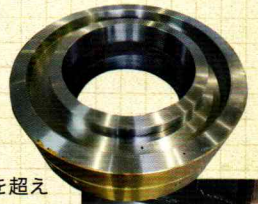
100分の1ミリの精度で  
巨大な鉄製品を仕上げる

### 5 上田鉄工

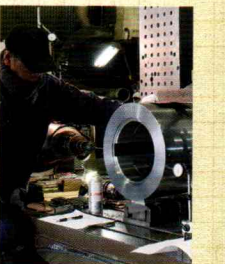
**上** 田鉄工の工場入口をくぐると、10万tを超える船舶のスクリューを船体に固定する、直径1.5mのナットの製作中だった。旋盤の先につけられた切削刃物が、硬い金属をリングの皮を剥くように薄く削っていく。

作業にあたるのは、3年前に上田鉄工の事業を継承した現社長・横原政男さんと、6歳下の弟、正廣さんのお二人。「うちの工場が得意なのは、人の細かい手作業を要する一点物の金属加工です」。レーザーで荒く切られた部品を預かり、切削機械を使って100分の1ミリの精度で仕上げる。短納期で質の高い製品を作ることがモットーだ。横原社長は九州の出身で、関西の機械メーカーで長年金属加工の経験を積んできた。「大正区の町工場の多くは技術の継承が課題となっています。うちも若いやる気のある人に、ものづくりの技術を繋いでもらえたら嬉しいですね」

●大正区小林西2-15-16 ☎06-6554-7122



工場にはNC旋盤機と汎用機が2台ずつあり、プラントメーカーなどの難しい要望に技術で応える。



## 切削加工



# 人材育成

現場リーダーを養成する  
港湾荷役業務の



## 8 大阪港湾労働分所 (ポリテクセンター大阪港)

ポリテクセンター大阪港の訓練生が、両手に握るクレーンの操作レバーを慎重に倒すと、2tの荷に見立てたドラム缶がゆっくりと移動し、目標点に正確に着地した。操作の前に下に人がいないか、ロープが絡んでいないか、荷物は水平を保っているか、「よし」と声を出しながら確認する。分所長の田島幹夫さんは「万が一突風などでバランスを崩して、荷物が落下したら作業員の生命に関わります。ここで安全なクレーンやフォークリフトの操作技術をしっかりと身につければ、生涯にわたって仕事ができますよ」と話す。

日本の物流を支える海運。その荷役業務のリーダーを担う人材を1年かけて養成する訓練施設が、ポリテクセンター大阪港だ。センターからは、近くの大阪港でコンテナの積み卸しを行う高さ100m程のガントリークレーンが見える。その巨大なクレーンを操作し、1時間に何十個ものコンテナを積み下ろす凄腕の通称「ガンマン」は、以前NHKの『プロフェッショナル』にも取り上げられ、訓練生にとっても憧れの存在だ。

●大正区鶴町2-20-21 ☎06-6552-4012  
<http://www3.jeed.or.jp/osaka/poly/kowan>



港湾の関連会社ではOBが幹部として多数活躍。30名の同期との絆は卒業後も続くという。



## 7 福井精機工業

モーターや自動車のタイヤなど、回転する機械のほぼすべてに使われるベアリング。その球体を支えるプラスチック製の「保持器」を作る金型で、世界トップクラスのシェアを誇るのが福井精機工業だ。

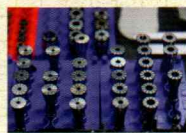
同社が取り引きするのは、国内外最大手の自動車部品メーカー。なんと世界中を走る自動車の25%には、同社の製作した金型から生まれた樹脂部品が入っている。

「私たちが得意とするのは『真円度が必要な回転する丸い樹脂部品』です。試作品の開発から、測定・検査・量産金型の生産まで、一貫して行えます」と語るのは専務の清水一蔵さん。前職の広告代理店でセールスプロモーションを担当した経験から、同社の広報宣伝活動にも力を入れている。「自分の働く会社にいるんながが見学を訪れたり、新聞やテレビで取り上げられれば、従業員の士気も上がります。金型は日本の工業技術の粋。大正区の端っこに、金型で世界に打って出ようとする企業があることを知ってもらえたら」

●大正区鶴町1-16-13  
☎06-6552-0115  
<http://www.fukuseikikogyo.co.jp/>



得意なのは「丸いモノ」  
ベアリング保持器で  
世界を狙う



昨年、技術開発センターを設置。ロボットなどの新しい産業分野にも進出を図る。



金型

## 成長し続ける、大正区の“ものづくり”プロジェクト。

大正ものづくり事業実行委員会では、区内の子どもたちを中心に、ものづくりの素晴らしさを伝える「大正ものづくりフェスタ」、実際の工場を見学・体感しながら、区内の観光スポットも一緒に楽しんでいただく「大正オープンファクトリー」、高校生・大学生を対象にした「インターンシップ」など、様々な“ものづくり”に関する事業を展開しています。

そして、平成28年度からは、全国の修学旅行生ものづくり工場見学ツアーを本格実施し、ものづくりの素晴らしさを体感していただくことはもとより、キャリア教育の場としてもご利用いただき、すでに1200名もの生徒さんたちが、北は青森県から南は福岡県まで、全国各地からここ大正区へお越しになっています。

また、新たな取り組みとして、都市滞在型インターンシップを実施し、大正区の生活(働くこと、暮らすこと)すべてを肌で感じていただくという事業も実施していく予定です。

大阪から全国へ、大正区が“ものづくり”のまちとしますます広がりを見せています。

今後も新たなことにどんどんチャレンジする大正区の“ものづくり”にご注目ください。

